

旺文社

標準
國語辭典

高田精一監修

新版

旺文社

標準
國語辭典

吉田精一監修

—— 新版 ——



旺文社編

[illegible]

□「旺文社案内」または「図書案内」(小、中、高一般別)進呈。〒162 東京都新宿区横須賀 旺文社

新能率見出し (実用新案出願番号105851, 105852, 105853)

乱丁・落丁はお取りかえますので本社に直接お申し出ください

五十音索引

(数字はページを示す)

ん 902	わ 894	ら 864	や 830	ま 774	は 644	な 605	た 486	さ 302	か 118	あ 11
＊	ゐ 902	り 869	＊	み 788	ひ 682	に 620	ち 521	し 332	き 178	い 38
＊	＊	る 881	ゆ 840	む 802	ふ 709	ぬ 629	つ 540	す 421	く 218	う 68
＊	ゑ 902	れ 883	＊	め 810	へ 741	ね 631	て 554	せ 439	け 236	え 82
＊	を 902	ろ 889	よ 851	も 818	ほ 752	の 637	と 574	そ 468	こ 258	お 93

付録目次

- | | | |
|-------|--------------|-----|
| (一) | 国語の書き表し方 | 九〇四 |
| (二) | 敬語の使い方 | 九一四 |
| (三) | 国文法の解説 | 九一八 |
| (四) | ◎品詞 | 九一八 |
| (五) | (1)動詞活用表 | 九二六 |
| (六) | (3)形容動詞活用表 | 九二九 |
| (七) | (5)助詞一覽表 | 九三三 |
| (八) | 国語のアクセント | 九三六 |
| (九) | 手紙の書き方 | 九四二 |
| (十) | 作文の書き方 | 九四八 |
| (十一) | 文学史年表 | 九四八 |
| (十二) | 文字のなりたち | 九五八 |
| (十三) | 名数表 | 九六〇 |
| (十四) | 漢字の筆順 | 九六二 |
| (十五) | むずかしい読みの熟語 | 九六四 |
| (十六) | 漢字部首の名まえ | 九六六 |
| (十七) | 方位・時刻表、月齡表 | |
| (十八) | 月の異名、千支順位表 | 九六七 |
| (十九) | 古典の学び方 | 九六八 |
| (二十) | 旧国名と現在の都道府県名 | 九七〇 |
| (二十一) | 小学校学年配当漢字一覽 | 九七二 |
| (二十二) | 和歌・俳句の解説 | 九七三 |
| (二十三) | ◎和歌の部 | 九七三 |
| (二十四) | ◎狂歌の部 | 九七七 |
| (二十五) | 和歌・俳句索引 | 九七八 |
| (二十六) | 故事・ことわざ索引 | 九八二 |
| (二十七) | 漢字画引き索引 | 九八六 |
| (二十八) | ◎俳句の部 | 九七五 |
| (二十九) | ◎川柳の部 | 九七七 |

監修者のことば

ことばは私たちの生活に欠くことのできないものです。ことばによって人々は意思を通じ合えるというだけではありません。人間は考えることができ、考えるということにことばは大きな役割を果たしています。一つの国の文化が栄え、生活が豊かになるのも、その国の人々が、ものごとを深く考える力を備えているからであり、そこには必ずことばの力が働いています。また、ことばは人がらをあらわします。教養のある人ほどことばが美しく、使い方が正確です。私たちはことばの学習を通して、正しく豊かな国語力を身につけることがたいせつです。

正しく豊かな国語力を養うには、ことばの指針となる国語辞典をいつも利用するのが最も確実な方法です。ただ、学生は学ぶべきことが多く、単にことばを集めて意味を示してあるというだけの辞典では、決してみなさんに適した辞典とはいえません。学習というみなさんの立場をじゅうぶんに考えたものでなければなりません。そのような考えから、一九六五年、中学初級から使いやすい学習国語辞典として「旺文社標準国語辞典」をはじめて世に出しました。この辞典は幸いにして中学生諸君をはじめ高校生、一般家庭の人々にもたいへん好評を得てきました。その後、一九七一年に全面改訂を行い、また一九七三年には、内閣告示となった「送り仮名の付け方」等を採用して再度の改訂を行いました。さらに今回の改訂では、初版からの根本方針である『中学生からの学習に直接役だつ国語辞典』として本書をいっそう完全なものにするため、従来の特長をさらに徹底させ、全体にわたって修正を行いました。特に「学習」欄を拡充、故事・成句や新語・時事語もいっそう充実させるなど、新しい教育に対応し、国語学習のすべての面にじゅうぶん役だつようにしました。また、新たに実施される「常用漢字表」案を全面的に採り入れ、最新の内容をもった国語辞典といたしました。みなさんが常にこの辞典を手もとにおいて愛用してくだされば、必ずや豊かな国語力が身につくことと信じます。

一九七九年 初秋

吉田精一

刊行にあたり

人間はことばによってお互いの意志を伝え合い、複雑ななかに秩序をもった社会生活を営んでいます。ことばとそれを表す文字によって人々は文化をきずきあげ、伝承してきました。私たちの日常に、ことばや文字のない生活は考えられません。そのたいせつなことばや文字を学ぶ国語の学習は、すべての学科の土台ともなるものです。将来に向かって大きく伸びようとするみなさんは、ぜひ国語力をじゅうぶん身につけていたいただきたいと思います。

「旺文社標準国語辞典」は、みなさんの国語の能力を正しく効果的に伸ばすことを目標につくられたものです。一九六五年に初版を刊行し、その後、二度にわたる改訂で内容をいっそう充実させてきました。今回は、学習のための辞典という本書の特色をさらに徹底させて、再検討を加え、全面的に改訂しました。また、新しく実施される「常用漢字表」案を全面的にとりいれ、最も新しい内容をもった国語辞典として、次のようなかずかずのすぐれた特長をもたせました。

一、学習に日常生活にじゅうぶん役だつ四万一千余語

現代の国語を中心に、人名・地名・作品名・動植物名、重要な古語・百科語、さらに和歌・俳句、新語・時事語など、学習にも日常生活にも必要じゅうぶんな四万一千余語を収録しました。

一、解説は親切で、くわしくわかりやすく、実用的な用例も豊富

語の解説は中学生にじゅうぶん理解できるよう、わかりやすく親切にまとめてあります。また実用的な用例を多くし、必要なものはもらさずとりあげてあります。

一、「常用漢字表」案に示された漢字を含む一九九六字を大活字で示し、音訓・意味から筆順まで説明

常用漢字表案に示された漢字全部と、さらに日常使われることの多い漢字を合わせて一九九六字とりあげ、大活字でかけ、その音訓・意味はもちろん筆順まで示したので、漢字辞典として漢字もじゅうぶんしらべられます。

一、現代の最も標準的な書き表し方をわかりやすく示す

見出し語の一つ一つについて、文部省の基準に従った書き表し方を示しました。これは現代かなづかい、新送り仮名の付け方、さらに新しく実施される「常用漢字表」案に従った現代の最も標準的な書き表し方です。

一、「学習」欄でことばの正しい使い方を解説

この辞典独特の「学習」の囲み記事を設け、読みが同じで漢字が違うことば（同訓異字や同音異義語）の使い分けをくわしく解説し、ことばのこまかい相違をていねいに示しました。

一、読み書き能力が正しく身につく注意・参考欄

この辞典が初めて設けた「読み方注意」「書き方注意」「使い方注意」の欄で、漢字やことばのあやまりやすい点を、そのつど注意したり、**【参考】****【文法】**欄のほか、**【故事】**欄をさらに充実させ、ことばの使い分けや学習上参考となる興味深い知識を説明してあるので、読み書き能力が身につくとき、ことばの知識を豊富にし、正確にします。

一、有名な和歌・俳句をもれなく本文に採録

教科書に出てくるものを中心に有名な和歌一四九首、俳句一〇九句を本文に収めて正しくわかりやすい解釈をつけました。国語の学習に役立ち、よい資料となります。

一、学習に関係深い、すぐ役だつ付録とわかりやすい図版を多数掲載

国語の学習や、読んだり、書いたりする上に直接役だつ二十項目八八ページにわたることがらをわかりやすくまとめて付録にかかげました。また、分類図や部分の名前の図など一目でわかる図版を約六〇〇枚入れました。

このように、この辞典はみなさんの学習に直接役だついろいろの特色をもちこみました。これらの内容をじっくり活用して思うぞんぶん勉強してください。おわりに、この辞典を刊行するにあたって旧版にひき続き監修の労をおとりいただいた吉田精一博士をはじめ、執筆校正に特にご協力をいただいた次の先生方にあつくお礼を申し上げます。

伊藤栄洪、浦辺満明、川嶋 優、佐藤亮一、真田信治、沢木幹栄、白沢宏枝、名取賢一、日比野仁佐雄、桎 繁、松井一夫（敬称略、五十音順）

なお、巻末付録「国語のアクセント」をご執筆たまわった平山輝男先生に深く感謝いたします。

旺文社社長

東尾好夫

この辞典のきまりと使い方

〔一〕 見出し語の示し方

1 ひらがなやかたかなの太字で示したものを「見出し語」といいます。見出し語は、現代かなづかいによりました。ただし、古語（むかし使われたことばで、現在では古文にしか出てこないことば）と和歌・俳句などは歴史的かなづかい（「あわれ」を「あはれ」、「おさない」を「をさない」などと表す類）でかかげました。

2 外国の地名・人名、また、外来語（外国からきたことば）はかたかなで示し、そのほかのことばはひらがなで示しました。

3 活用語は、言い切りの形（終止形）で出し、語幹と語尾との区別のできるものは、その切れ目を「・」で示しました。そのほか一部の接尾語には、ことばの形が変わらない部分との間に「・」を入れました。ただし、「別の人にあたつてみよう」の「あたつて」は、このままの形では出ていません。こういうことばは言い切りの形「あたる」で出ていますから、引くときはじゅうぶん注意してください。

あじわう【味わう】（動五）

あま・い【甘い】（形）

め・く（接尾）

4 接頭語にはその下に「・」を、接尾語にはその上に「・」をつけ示しました。また、外来語で二つの単語から成り立っていること

ばも「・」をつけて示してあります。

あい【相】（接頭）

さ（接尾）

ノック・アウト [knock out]

5 見出し語に、ほかのことばがついてできたことわざ、慣用句などは、ふつうの見出し語の説明のあとに次のように示しました。

かた【肩】（名）

―でいき（息）をする 苦しうに肩を上下に動かして息をする。―でかぜ（風）をき（切）る いばつてゐるようす。

6 和歌・俳句は、第一句目をひらがなで見出しとしました。

あをによし【あをによし（和歌）「あをによし 奈良の都は 咲く

花の 薫ふ」がごとく 今盛りなり】

〔二〕 見出し語のならば方

1 見出し語は五十音順（あいいうえお順）にならんでいます。五十音順というのは、最初に「あ」で始まることばがならび、次に「い」で始まることば、「う」で始まることば、……最後に「わ」「ゐ」「を」で始まることばがならびます。

同じかなで始まることばの順序は、二番目のかなが五十音順、二番目が同じときは三番目のかなが五十音順、というふうにすべて五

十音順ならんでいます。

あかじ【赤字】

あかしお【赤潮】

あかつき【暁】

あからがお【赤ら顔】

あからさま

2 五十音順で順序が決まらないものは、次の約束によりしました。

(ア) 清音^ㇿ・濁音^ㇿ・半濁音^ㇿの順にする。

はす【蓮】

バス【bus】

パス【pass】

ほんぶ【本部】

ほんぶ【凡夫】

ポンプ【pump】

(イ) 「てつき」「めつき」などの促音^ㇿ「っ」は「つ」の前に置く。

てつき【鉄器】

てつき【手つき】

(ウ) 「かしや」「しよう」などの拗音^ㇿ「や・ゆ・よ」は「や・ゆ・よ」の前に置く。

かしや【貨車】

かしや【貸家】

しょう【性】

しょう【子葉】

(エ) 長音符号「ー」は、その場合の発音がア・イ・ウ・エ・オのいずれであるかをみて、それぞれの音を表すかと同じものとする。

スカート

は スカートの位置に置く。

ホース は ホースの位置に置く。

このようなことを引くときは特に注意してください。

ずが【図画】

スカート【skirt】

ずかい【図解】

ほおじろ

ホース

ほおずき

この辞典のきまりと使い方

3 見出し語の、かなで書いた形がまったく同じ場合には、次の約束でならべました。

(ア) 漢字見出し・和語（日本固有のことば）・漢語・外来語の順。

がん【願】

がん【雁】

ガン【gan】

がん【雁】

がん【雁】

(イ) 品詞により、接頭語・接尾語・名詞・代名詞・動詞・形容詞・形容動詞・連体詞・副詞・感動詞・助詞・助動詞の順にする。

(ウ) 見出し語の書き表し方

1 見出し語のうち、漢字で書き表せるものは、ことばの種類によつて【】（一）の三種類のうちどれかに入れました。

(ア) 【】の中にくつうより大きい文字で示したものは現代の標準的な書き表し方です。

あまど【雨戸】

あらう【洗う】

※送りがなの示し方について

昭和四十八年内閣告示「送りがなの付け方」によりしました。

【表す（表わす）】……「表す」が本則。「表わす」が許容。

【生（ま）れる】……「生まれる」が本則。「生れる」が許容。

【受（け）持ち・受持】……「受け持ち」が本則。「受持ち」および「受持」が許容。

ただし、省略する形がのぞましくないと判断したものは、本則だけに従いました。

※記号について

……常用漢字表案にあって常用漢字表にない漢字

*……当用漢字表にあって常用漢字表案にない漢字

（五）

この辞典のきまりと使い方

- (4) 「」の中にふつうの大きさの漢字で示したものは、(7)以外の書き表し方です。この「」の中の漢字についている。×以外の記号は次のことを表します。

△……常用漢字表案にない漢字

あいさつ「挨拶」 おきて「掟」

。……常用漢字表案にない読み方

おととい「一昨日」 たて「殺陣」

〔注〕常用漢字表案にしたがった読み方であっても、そのことばの書き表し方としては一般的でないものとめられるものは、「」に入れて示しました。

たくさん「沢山」 りっぱ「立派」

- (5) 「」の中にふつうの大きさの漢字で示したものは、人名・地名・書名・古語・和歌と俳句などです。これらの漢字が常用漢字表案以外の漢字または読みであっても「△」「◇」のしるしはつけていません。

あくたがわりゆうのすけ「芥川龍之介」

かながわ「神奈川県」

おぼす「思す」

あきふかき「《俳句》『秋深き 隣とは何を する人ぞ』

- 2 外来語には「」の中にもとのつづりを示しました。また、英語以外のことばにはつづりの上に、その言語名も示しました。

ドイツ ドイツ
ロシア ロシア
中国 中国
インド インド
ジャバ ジャバ
ガルト ガルト
ラテ ラテ
アロ アロ

ただし、和製英語（英語をもとにして日本でつくったことば）については、つづりの上に「和製英語」と示しました。

ハイヒール「和製英語 high heels」

- 3 古語と和歌・俳句の見出しだけは歴史的かなづかいで出ています

〔六〕

が、この読みを、かたかなで現代かなづかいで示しました。また、和歌・俳句については、見出しだけでなく、「」の中の歴史的かなづかいについても現代かなづかいで読みを示しました。

いらふ「答ふ・応ふ」

ひむがしの「和歌」東の 野にかきろひむがしの

〔四〕 大見出し漢字について

常用漢字表案に示された漢字全部と、日常使用度の高い漢字を合わせて一九九六字を取り上げ、音を見出しとして（ただし、音がなく訓だけの漢字は訓で）掲げ、読み・筆順・意味を示しました。

あつかう【扱う】あつかう 才 扱 扱扱

がん【顔】顔【顔】ガ 顔 ヲ 立 彦 顔 顔

じん【腎】腎 ジ ン 尸 臣 腎 腎 腎

(7) 漢字の下のかたかなは音、ひらがなは訓を示します。かなの太字は常用漢字表案にあるものです。同表にないが、一般によく使われる音訓は細字で示しました。ただし、かなの太字の下の細字は、送りがなの部分を示します。

きん【金】金 キ ン ・ コ ン カ ね ・ カ ね ・ コ が ね ノ 金 金 金 金

また、音または訓に傍線のあるものは、特別なものか、または用法のごく狭いものであることを示します。

けい【兄】兄 ケ イ ・ キ ヲ ウ 一 口 兄 兄

- (4) 漢字の音訓の下に、その漢字の標準的な筆順を示しました。

(ウ) 教の記号は、義務教育中に読み書きを覚える漢字、すなわち教育漢字を示しています。

〔五〕品詞と活用

ことばの意味の前に品詞と活用を（ ）に略号で示しました。また、活用のあることばには品詞名のあとに（ ）の中に実際の活用形を示しました。（二〇ページ「略語・記号表」参照）

つくる【作る・造る】(動五)
(ラ・ロ・リ(ツ)・ル・ル・レ・レ)

のに従いました。ただし、一部については、次の形式によりました。

(イ) 普通名詞のなかで、動詞のサ変および形容動詞の語幹となるものは、品詞名をあわせて記し、語尾活用の基本形を示しました。

もうれつ【猛烈】(名・形動々)

(ウ) (外) の記号は、口語では見出し語に「と」がついて副詞、「た」がついて連体詞となることを表します。文語では「タリ活用」といわれるものです。

(エ) 単語と単語が合わさった長いことばには品詞名はありません。

とらぬたぬきのかわざんよう〔捕らぬ[△]狸の皮算用〕……

一つの見出しで二つ以上の品詞に用いられ、ことばの意味もちがうときは、**□(名)……□(副)……**のように品詞を分けました。

①ひどく。はなはだしく。……③(接尾)(数を表すことばの

下(下)……

この辞典のきまりと使い方

〔六〕 ことばの意味と説明

① 一つのことばに意味が二つ以上あるときは、①②③…に分け、①②③…それぞれがさらに分けられるときは、㉠㉡…に分けました。

くつ・する【屈する】（動サ変）
（スル・スレシヨロセヨ） ①ア折れる曲がる。……①イ折り曲げる。……②ア勢いを失う。……

①相手の勢い……

2 ことばの意味の前に『数』…数学、『植』…植物などの略語をつけ、ことばの種類を示しました。(二〇ページ「略語・記号表」参照)

3 ことばの意味の理解をいっそう深め、ことばの実際の使い方を理解できるように例文をできるだけ多く入れました。

(ア)「」の例文の中の―は、見出し語にあたる部分です。
(イ)動詞・形容詞などのことばが使い方によって見出し語

ったときは、ーの下に「・」を入れ、その下に活用語尾を入れました。

う・れる【熟れる】(動下一)〔レレ・レルン・レル・ル〕(くだものなどが
みのる。熟し^くす。「よくーれた柿^{かき}」)

ただし、使い方によって見出し語の形とまったく変わる特別な

もの（語幹^こ）と語尾の区別のないもの、助動詞などは、見出し語にあたる部分を太字で示しました。

える【得る】(動下一) ①…… ②……する

4 古語の例文には、できるだけ多く(「」)の中にその例文の解釈を示しました。また、出典名をへに包んで示しました。

あいなし(形ク) (ク・カウ・タ(カリ)・シ・ホ(カル)・ケレ・カレ) 《古語》……「世に語り

この辞典のきまりと使い方

伝えること、まことは「きや」(「本当のことは平凡でつまらないだろう」) (徒然草(つらな))……

5 見出し語と同じ意味のことば(同意語)があるときは、説明のすぐあとに「のしるしをつけて示しました。」

がいかん【外観】(名) 外側から見たようす。見かけ。うわべ。Ⅱ外見。「ーはりっぱだ」

6 意味の理解を助けるために必要な反対語・対応語を、↑をつけて示しました。

せつきよくてき【積極的】(形動タ) (積極的(せつきよくてき)) あることとがらを、自分から進んで……↑消極的。

7 同意語および、反対または対応する意味のことばが、①②③……で分けられた説明の全部に通用するときは、全部の説明の終わったあとに《》にかこんで示しました。

あさ・い【浅い】(形) (浅い(あさ・い)) ①底や奥までの距離(あさ・い)が短い。「ー池」②程度が少ない。「経験がー」「日がー」

8 見出し語の意味や使い方について特に注意しなければならぬこととがらや参考となることとがらは、次の項目をあげて説明しました。

(ア) 読み方注意…見出し語の読み方で注意を要することとがらしようもう【消耗】(名・動スル)……読み方注意もとの読みは「しょうもう」であるが、ふつう「しようもう」と読みならわされている。

(イ) 書き方注意…見出し語の書き方で注意を要することがらぜったいぜつめい【絶体絶命】(名)……書き方注意絶

(ウ) 使い方注意…見出し語の使い方方で注意を要することがら使いに【単に】……使い方注意あとに「だけ」「のみ」「…にす

9

【文法】…見出し語の文法に關係したことがら

ありうる【有り得る】……【文法】下一段活用の「得る」の活用が変ったもの。「ありうる」の活用形は(ありうる)

10

【学習】…見出し語に關係したいろいろの知識

あたたか【暖か・温か】(形動タ) (あたたか(あたたか)) ①熱すぎない程度に高い、ほどよい温度。②金銭的に豊かなようす。「ふところが一だ」③愛情深い。なまけ深い。「ーな心の持ち主」

【学習】「暖か」と「温か」の書き分け——「暖か」は日が当たってあたたかなこと、「温か」は水があたたかなことがもとの意。転じて「暖か」は気温がほどよいこと、また、物が日に当たってあたたまることによく使われ、「温か」は、やわらいでいること、おだやかなこと、人の性質などをいうときに使われる。

あたりめ【当(た)りめ】(名) するめ。【参考】商家などで

「するめ(財産などを使い果たす)」をきらつていうことば。

11 【故事】…中国の古典に出る故事をわかりやすくのせ、終わりに出典名をへに包んで示しました。

かぎゅう【蝸牛】(名) (動) かつむり。

——かくじょう(角上)のあらし(争い)狭い世界で、ささいなことでもつまらぬ争いをする。蝸牛の争い。

【故事】かつむりの左角と右角の上に小さな国を持つ蝸牛氏と蜜(みつ)氏が互いに地を取りあつて争ったという故事による。(莊子)

この辞典に使った略語・記号

【】 標準的な書き表し方。常用漢字表案・現代かなづかい・送り仮名の付け方などに使ったもの。
 【】 常用漢字表案によらない書き表し方のもの。

ただし、常用漢字表案にしたがっていても、一般に漢字で書き表されることが少ないとみとめられるもの。

〔 〕 古語・固有名詞（地名・人名・書名）・和歌・俳句・外来語のつづり。

（ ） 見出し語の書き表し方を、「送り仮名の付け方」の通則1の許容にしたがったもの。

〔 〕 見出し語の送りがなが「送り仮名の付け方」の通則2・4・6の許容にしたがって、はぶいてもよいとみとめられるもの。

品詞と活用

（名） 名詞
 （代） 代名詞

（動五） 動詞五段活用

（動四） 文語の動詞四段活用

（動上一） 動詞上一段活用

（動上二） 文語の動詞上二段活用

（動下二） 動詞下一段活用

（動下二） 文語の動詞下二段活用

（動カ変） 動詞カ行変格活用

（動サ変） 動詞サ行変格活用

（動ナ変） 文語の動詞ナ行変格活用

（動ラ変） 文語の動詞ラ行変格活用

（動スル） 「する」をつけて動詞として使うもの。

（形） 形容詞

（形ク） 文語形容詞のク活用

（形シク） 文語形容詞のシク活用

（形動ダ） 形容動詞。言い切りの形が「だ」となる。

（ト） 「と」がついて副詞となり、「たる」がついて連体詞となるもの。

（形動ナリ） 形容動詞で、文語では言い切りの形が「なり」となる。

（連体） 連体詞

（副） 副詞

（接） 接統詞

（感） 感動詞

（助） 助詞

（助動） 助動詞

（接頭） 接頭語

（接尾） 接尾語

百科語など

〔文〕 国語・文学

〔文法〕 国文法・文法一般

〔歴〕 歴史・考古学

〔経〕 経済

〔法〕 法律

〔数〕 数学

〔物〕 物理学

〔化〕 化学

〔天〕 天文・気象

〔動〕 動物

〔植〕 植物

〔地〕 地理

〔地質〕 地質・地球

〔音〕 音楽

〔美〕 美術

〔仏〕 仏教

〔演〕 演劇

〔医〕 医学・保健

〔生〕 生理

記号

△ 常用漢字表案にない漢字。

○ 常用漢字表案にない読み方。

。 常用漢字表案にあつて常用漢字表にない漢字。

× 常用漢字表にあつて常用漢字表案にない漢字。

∥ 同じ意味のことば

↑ 反対の意味のことば。意味が対応することば

↓ 他に見出しを参照する。

⇓ 語釈があつて、なお他に見出しを参照する。

《 》 同じ意味のことば、反対・対応する意味のことばが、①②③の全部の意味に共通するもの。

〔 〕 教育漢字

〔 〕 故事・ことわざ・成句で同じ意味をもつことば。

〔 〕 故事・ことわざ・成句で反対の意味をもつことば。

あ

A a

あ【亜】アー アー アー 亜

①つ。準じる。「亜熱帯」②アジア(亜細亜)の略。

あ【阿】ア おねる アー アー アー

①へつ。おもむく。②人を親しみ呼ぶときにつける語。

あ【アーク】アー アーク アーク アーク

①「すばらしい」「いやだ」アークと「アーク灯」(arc lamp) (名) 向かい合った二本の炭素の棒に電流を通じて、白色の光を出させる電灯。

アーケード (arcade) (名) ①半円形の屋根のある通路。②道路の上に屋根のようなおおいのある商店街。

アース (earth) (名) 【物】電気装置と地面との間を導線につなぎ、電流を大地に流すしかけ。また、それに使う導線。

アーチ (arch) (名) ①石・れんがなどで半円形に作った構造物。②すきひのきなどの木の葉でおった門。③野球でホームラン。「アーチをかける」

アーチエリー (archery) (名) 洋弓。西欧諸国で発達したスポーツ。弓と矢を用いてのことに当り、得点を競う。

アート紙 (art paper) (名) 表面がなめらかでつやのある、やや厚い印刷用の紙。カ



(アーチ②)



(アーチ①)



(アーケード②)

あ — アイキ

ラ印刷や写真印刷によく使われる。

アートシスター (art sister) (名) 芸術的にすぐれた映画や実験的な映画を上映する映画館。

アーメン (amen) (名・感) 「まこと」の意味。キリスト教で祈りのあとに唱えらる。

アーモンド (almond) (名) 【植】バラ科の落葉高木。種子は先のとがった長円形で、苦味のある種類のものは薬用になる。または菓子や料理などに使う。「アーモンドチョコレート」

アル (areal) (名) メートル法による面積の単位。一アルは二〇〇平方。記号 a。

アルエイチいんし (RH 因子) (名) 【医】血液中にある特殊な血液型を作る成分。この因子をもつ血液型 (RH+) とない血液型 (RH-) がある。

あい【哀】アイ あわれ あわれ あわれ あわれ

①かなしみ。「哀愁」「悲哀」②かなしみ。かわいそうにおも。「哀悼」③泣きつくようにする。「哀願」

あい【愛】アイ アイ アイ アイ アイ

①あひする。かわいが。愛情・博愛①憎む。②男女がしに合う。「恋愛」③のむ。すきた。「愛好・愛読」

④おしむ。「愛惜」「割愛」⑤大事にする。「愛護・自愛」

あい【隘】アイ アイ アイ アイ アイ

せいの。細くついている。「隘路・狭隘」

あい【相】(接頭) ①たがいに。「対する」②いっしょに。「乗り」③動詞の語調をととのえるためにそえることば。「一変する」

あい【藍】(名) ①【植】タデ科の一年草。葉は長円形で秋に紅色の花をける。葉から青色の染料をとる。②①の葉から青色の染料をとる。③この青色。あひ色。↓青は藍の出てて藍より青し



(藍) ①

あいあいがいさ【相合(傘)】(名) 一本の傘を二人でさすこと。

ふつは男女の場合が多い。

あい【愛育】(名・動スル) かわいがって育てること。あい【相】(名・動スル) かわいがって育てること。あい【相】(名・動スル) かわいがって育てること。

アイエムエフ (IMEF) (名) (International Monetary Fund) の略。国際通貨基金。加盟国間の貿易の拡大、為替の安定、経済成長などをはかる目的で設けられた国際金融機関。

アイエルオー (ILO) (名) (International Labor Organization) の略。国際労働機関。労働者の権利を守り生活の向上をはかるための国際連合の専門機関。

あい【愛煙家】(名) たばこを好む人。あい【愛煙家】(名) たばこを好む人。

あい【えんきん】(名) 合縁奇縁。合縁機縁 (名) 人と人との間には、気がよく合う合わないことがあるが、それはふくま縁によるといふこと。

アイオシー (IOC) (名) (International Olympic Committee) の略。国際オリンピック委員会。オリンピックの開催と都市の決定、アマチュアスポーツの奨励、指導、各国スポーツマンの交流促進などをとする。

あい【か】(哀歌) (名) 悲しい気持ちをつたえた歌。エレジー。

あい【か】(合) (名) 合縁奇縁。合縁機縁 (名) 人と人との間には、気がよく合う合わないことがあるが、それはふくま縁によるといふこと。

あい【か】(哀歌) (名) 悲しい気持ちをつたえた歌。エレジー。

あい【か】(合) (名) 合縁奇縁。合縁機縁 (名) 人と人との間には、気がよく合う合わないことがあるが、それはふくま縁によるといふこと。

あい【か】(哀歌) (名) 悲しい気持ちをつたえた歌。エレジー。

あい【か】(合) (名) 合縁奇縁。合縁機縁 (名) 人と人との間には、気がよく合う合わないことがあるが、それはふくま縁によるといふこと。

あい【か】(哀歌) (名) 悲しい気持ちをつたえた歌。エレジー。

あい【か】(合) (名) 合縁奇縁。合縁機縁 (名) 人と人との間には、気がよく合う合わないことがあるが、それはふくま縁によるといふこと。

あい【か】(哀歌) (名) 悲しい気持ちをつたえた歌。エレジー。

あい【か】(合) (名) 合縁奇縁。合縁機縁 (名) 人と人との間には、気がよく合う合わないことがあるが、それはふくま縁によるといふこと。

あい【か】(哀歌) (名) 悲しい気持ちをつたえた歌。エレジー。

あい【か】(合) (名) 合縁奇縁。合縁機縁 (名) 人と人との間には、気がよく合う合わないことがあるが、それはふくま縁によるといふこと。

あい【か】(哀歌) (名) 悲しい気持ちをつたえた歌。エレジー。

略 知能指数。知能の発達程度を数字で表したものを。

あいきよう【愛・敬・愛・嬌】(名) ①にこにこしていかへらしきこと。「あのあきよをおおせじなどよく、人あたりのいいこと。」②をふりまく。③動物などがこけいなこと。「一者の娘さ。」

あいきよう【愛郷】(名) 自分の生まれた土地を愛すること。①「合」②「口」(名) ①つばのない短刀。ふところ刀。②話のよく合う人。「いがい」【書方注意】①は「七首」とも書く。

あいけん【愛犬】(名) ①かわいがっている犬。②犬をかわいがること。「一家」

あいこ【相手】(名) たがいに勝ち負けのないこと。「おー」

あいこ【愛顧】(名) ひきかたのこと。ひいきにすること。「みなさまのこーをたまわて」

あいこ【愛護】(名) 動スル。かわいがり守ること。「動物ー」

あいこ【愛好】(名) 動スル。愛し好むこと。「音楽ー者」

あいこ【愛国】(名) 自分の国を大事にすること。「ー心」

あいこ【合言葉】(名) ①前もって決めておいて仲間であることをたしめるときに使う合図のこと。②仲間どうしが、それを目当てにして行うように決めたこと。スロガン。「事にするこー」「一家」

あいさい【愛妻】(名) ①大事にしている妻。②妻を大いさつ【挨拶】(名) 動スル。①人にかつたときにかねず社交的なことばで動作。朝のーをかわす。②儀式のときなどにあらためて述べること。開会のーを述べた。③返事。うけたえ。「ーもろくにきかない」

あいじ【愛児】(名) 親がかわがっている子ども。いとし子。

あいじやく【愛着】(名) 動スル。↓あいぢやくアイシャドウ(eye shadow)(名) まぶたに青色や灰色などの化粧品を塗ること。また、その化粧品。

あいしゅう【哀愁】(名) もの悲しいこと。

あいしゅう【哀性・合性】(名) ①男女の性。②生年月日の組みあわせ。がうまく合うこと。②性格がよく合うこと。

あいしゅう【哀傷】(名) 人の死を悲しみなげること。

あいしゅう【愛称】(名) 親しい気持ちをかめて呼ぶ名まえ。「一歌」

あいしゅう【愛唱】(名) 動スル。好んでいふも歌うこと。「一歌」

あいじよう【愛情】(名) ①人や物事を愛するあたたかな気持ち。②異性を恋いしめる感情。

あいじよう【愛嬢】(名) かわいいたせつなむすめ。まなむすめ。(他人のむすめになう)

アイス(ice)(名) ①氷。「ースケート」②「アイスクリーム」の略。

あいじ【合図】(名) 動スル。前もって決めておいたり方であることが知られること。また、その知らせ。

アイスクリーム(ice cream)(名) 牛乳・卵の黄身・砂糖・香料などをまぜて作った氷菓子。

アイスボックス(ice box)(名) 氷でひやす冷蔵庫。また、持ち運びができ、物を入れひやせる小型の箱。

アイスホッケー(ice hockey)(名) 氷の上でスケート靴をはいて行うホッケー。一チームは六人。

アイスランド(Iceland)(名) 北大西洋上にある島国。共和国。牧畜と水産業がさか。首都はレイキヤビク。

あいする【愛する】(動サ変) あいさする。①かわいがりつくしむ。「子どもをー」②異性を恋いした。③たいていにつく。「好む」「花をー」

あいせき【合】(名) 席・相席(名) 見知らぬ人どうしが同じテーブルにつくこと。

あいせき【哀惜】(名) 動スル。人の死を悲しみおしむこと。哀悼。①「ーの情にたえない」

あいせき【愛惜】(名) 動スル。自分にとって大事なものとじて、手放すのをおしむこと。

アイゼン(iron)(名) 登山用具の一つ。氷やたい雪の斜面などを歩くときに登山靴の底につける、すべり止めの金具。

あいそ【哀訴】(名) 動スル。なげきつたえること。

あいそ【愛想】(名) ①にこにこ



(アイゼン)

て人ありのよいこと。「いがい」②もたなし。「なんのおーもなくすみません」③勘定。④「おー」【書方注意】「あいそ」も読む。

あいそ【哀】(名) すすかりいやになる。あきれる。

あいそ【愛憎】(名) 愛することにくむこと。

あいそ【愛蔵】(名) 動スル。たいていにつけて、保存すること。「一品」

あいそ【愛想】(名) かわいいたせつなむすめ。まなむすめ。(他人のむすめになう)

アイソトープ(isotope)(名) 同位元素。原子番号が同じで原子量の異なる元素。

あいだ【間】(名) ①物と物とはさまれたところ。すきま。「家と家のー」②時間・距離。などのへたり。「すこしーをあけてする」③あるときからあるときまでの時間。期間。「二日のーにしあげる」④まん中。中間。「二人の意見のーを取って委員は三名とする」⑤人と人との間が「親子のー」

あいたい【対】(名) 相手と二人で相談して決めること。

あいたい【対】(名) 相手と二人で相談して決めること。

あいたい【対】(名) 相手と二人で相談して決めること。

あいたい【対】(名) 相手と二人で相談して決めること。

あいたい【対】(名) 相手と二人で相談して決めること。

あいたい【対】(名) 相手と二人で相談して決めること。

あいたい【対】(名) 相手と二人で相談して決めること。

あいたい【対】(名) 相手と二人で相談して決めること。

あいたい【対】(名) 相手と二人で相談して決めること。

あいたい【対】(名) 相手と二人で相談して決めること。

②争いなどで相対しているもの。または、その人。「一の出方した」

アイデア [idea] (名) 考え。思いつき。着想。「一マン」

あいで [兄弟子] (名) 同じ先生について学ぶものどうし。同門。

あいど [哀悼] (名) 動スル人の死を悲しんで心をいためること。哀惜語。「ついで」の意を表す

あいどく [愛読] (名) 動スル 好んで読むこと。「一書」

アイドル [idol] (名) ①尊んでおがむもの。偶像。②愛される人。人気者。恋人。「若者の」

あいなし [形] (古語) ①満足できない。おもしろくない。「世に語に伝ふると、まことは一ききにや」

本当のことは平凡でつまらないのだらう(徒然草) ②そうであること。かりきりない。「みなおどろぞ」おどろかざるお心こそ。かりきりない(源氏物語) ③(あ)になく(い)なるの形でむやみ。たまたま。「上達部は、上人なども一々形をそめてつ」(それ) (源氏物語)

あいにく [生憎] (副・形動) ちよと具合が悪く。つづうが悪く。「一雨が降ってきた」

アイヌ [Ainu] (名) 北海道・樺太(サハリン)・千島に住む種族。日本の原住民といわれる。髪は黒く毛深い。むかしは「えぞ」と呼ばれた。明治以降は日本人との混血がすすんで、純粋なアイヌはまれになった。

あいのこ [合の子] (名) ①↓こんけつじ ②ちがう種類の二のもの間につかたもの。雑種。③両方の性質をもってどちらともつかないもの。

あいのこ [合の手] (名) ①三味線などの曲で、歌と歌の間に三味線だけでは足りない短い部分。②会話や物語の間にはむ別のことばや物語。「一を入る」

あいのり [相乗り] (名) 動スル 車などにのりしよに乗ること。「タクシーにす」

あいば [愛馬] (名) 馬をかわいがること。また、かわいがっている馬。

あいびき [あい引き] (名) 逢ひ引き (名) 動スル 男女がひ

そかに会うこと。

あいぶ [愛撫] (名) 動スル かわいがること。かわいがってな

あいく [合] (い) 服 (名) ①あいぎ ②あ

あいく [合] (い) 服 (名) ①あいぎ ②あ

あいく [合] (い) 服 (名) ①あいぎ ②あ

あいく [合] (い) 服 (名) ①あいぎ ②あ

あいく [合] (い) 服 (名) ①あいぎ ②あ

あいく [合] (い) 服 (名) ①あいぎ ②あ

あいく [合] (い) 服 (名) ①あいぎ ②あ

あいく [合] (い) 服 (名) ①あいぎ ②あ

あいく [合] (い) 服 (名) ①あいぎ ②あ

あいく [合] (い) 服 (名) ①あいぎ ②あ

あいく [合] (い) 服 (名) ①あいぎ ②あ

あいく [合] (い) 服 (名) ①あいぎ ②あ

あいく [合] (い) 服 (名) ①あいぎ ②あ

あいく [合] (い) 服 (名) ①あいぎ ②あ

あいく [合] (い) 服 (名) ①あいぎ ②あ

あいく [合] (い) 服 (名) ①あいぎ ②あ

あいく [合] (い) 服 (名) ①あいぎ ②あ

あいく [合] (い) 服 (名) ①あいぎ ②あ

あいく [合] (い) 服 (名) ①あいぎ ②あ

あいく [合] (い) 服 (名) ①あいぎ ②あ

あいく [合] (い) 服 (名) ①あいぎ ②あ

ありがとれる。調和する。「上着とスカートのがらがー」

④ひきあ。損にならない。「もてをわけても一仕事」

(動詞の下につけて) ながに同じことをする。「話し」

あ「会う」遭う (名) ①逢う。②(動五) ③

人と顔をあわせる。「友だちに」②ある物事にであう。「海で暴風に」

【学習】「会う」「遭う」の書き分け——「会う」は主として人と人が顔をあわせるあるいは集まりあうの意

「遭う」は思わぬことに偶然であうようなことに主として使われる。

一はわか(別)れのはじ(初)め 会はずは必ず別れるとき

がくるというので、無常のたえ。

アウト [out] (名) ①外。②庭球・卓球などで、球が線の

外に出ること。イン。③野球で、打者・走者がその権利を失うこと。↑セーフ。

アウトコーナー [outcorner] (名) 野球で、本塁のベースの

中央から打者に遠い側の部分。外角。↑インコーナー。

アウトサイド [outside] (名) ①外側。外面。↑インサイド。

アウトライン [outline] (名) ①ふちやへりの線。りんかく線。②あらまし。大要。

あえぐ [喘ぐ] (動五) ①苦しむにせむしく息をする。息をきらす。②苦む。苦勞する。「不景気に」

あえて [敢え] (副) ①進んで。しめて。むりに。「人をすくために一危険をおかす」②少量。まったく。「すんで」

「ません」などの打ち消しのことばがくる。

あえない [「敢えない」] (形) ①はかない。あつけない。「一最期」をとげる

あえもの [「あえ物」] (名) 野菜やさかななどにみそ

酢・こまなを入れた料理。

あえ文 [「和える」] (動下) (名) 野菜やさかななど

にみそ・酢・こまなどをまぜあわせて料理する。

あえん [亜鉛] (名) 化) 用のある青白くてもろい金属元

素。電池の陰極のつぎに用いる。元素記号 Zn。

(111)

此為试读, 需要完整PDF请访问: www.ertongbook.